

## 第四回報告書

2016年度奨学生 澁谷 陽子

### 授業について

今学期(2017年度の秋学期)はマクロ経済学のフィールドコースとComputational Economicsのフィールドコースを履修しました。1年目の授業とはうってかわって、2年目からは自分のリサーチトピックを探すための授業になります。授業では主に先行文献を生徒が交代して発表し、その論文についてみんなで議論を行います。試験だけ解いていればよかった1年目と違い、2年目は議論と発表が主体だったので自分の英語力のなさを日々痛感していました。マクロ経済学のコースでは、毎回の授業で2本の論文が指定され、授業当日にランダムで発表する人が決まるという恐ろしいシステムになっており、英語でのプレゼンを準備するのに大半の時間をかけてしまいました。日々英語には触れていますが、ある程度以上のレベルの英語を話すには、さらに訓練が必要だと思い知らされました。授業は二つとも比較的好きな授業で、各授業でいくつかのリサーチアイデアを思いつくことが出来たので、冬休みにもう少し深く考えてみようと思います。来学期は履修したい授業があまりないので、自分のリサーチに費やす時間をもう少し増やせそうです。

また今年からリサーチアシスタントが始まりました。主に先生が作ったモデルのコーディングやデータワークなどをやっていて、少しずつプログラミングにも慣れてきました。先生と良好な関係を築きたいという思いもありますが、効率的に、あまり時間を費やしすぎないように気をつけたいところです。

### 生活全般について

授業や研究については、うまくいかないことも多々ありますが、留学生活全般についてはとても楽しく毎日を過ごしています。サンフランシスコは思っていた以上に毎日快晴が多く、最近は美味しいレストランの情報も増えてきて、毎日幸せに暮らしています。

### 2年目後半に向けて

PhDに入学した際には、この5年間で「自分以外誰にも思いつかないような斬新な論文を書こう」と意気込んでいたものの、ふと気がつく既存の文献を少し改良して新たな示唆を与える程度のリサーチアイデアばかり思い浮かんでいます。日々自分のアイデアを見直し、自分の5年間を使ってまで探求すべき問題なのかを考えなければいけないな、と思います。節目節目に船井奨学金の

2017年12月11日

報告書を書くことが、私にとってリサーチアイデアを見直す良い機会となっています。報告書を通じて、自分のリサーチについて胸を張って皆様に御報告できるように頑張ります。船井奨学金の方々、いつもありがとうございます。

